# 平成 30 年度　大学入学共通テスト試行調査 地理 B【解答】

| 問題番号 | 設問 | 解答番号 | 正解 | 配点 | 問題番号 | 設問 | 解答番号 | 正解 | 配点 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 第 1 問 (20) | 1 | 1 | 3 | 3 | 第 4 問 (20) | 1 | 19 | 3 | 3 |
| | 2 | 2 | 6 | 4 | | 2 | 20—21 | 3—7 | 4* (各 2) |
| | 3 | 3 | 3 | 4 | | 3 | 22 | 1 | 3 |
| | 4 | 4 | 3 | 3 | | 4 | 23 | 4 | 3 |
| | 5 | 5 | 6 | 3 | | 5 | 24 | 6 | 3 |
| | 6 | 6 | 3 | 3 | | 6 | 25—26 | 3—7 | 4* (各 2) |
| 第 2 問 (20) | 1 | 7 | 4 | 3 | 第 5 問 (20) | 1 | 27 | 2 | 3 |
| | 2 | 8 | 2 | 3 | | 2 | 28 | 2 | 3 |
| | 3 | 9 | 5 | 4 | | 3 | 29 | 3 | 3 |
| | 4 | 10 | 4 | 3 | | 4 | 30 | 3 | 4 |
| | 5 | 11 | 4 | 3 | | 5 | 31 | 1 | 4 |
| | 6 | 12 | 3 | 4 | | 6 | 32 | 3 | 3 |
| 第 3 問 (20) | 1 | 13 | 1 | 3 | ＊：－(ハイフン)でつながれた正解は、順序を問わない | | | | |
| | 2 | 14 | 2 | 3 | | | | | |
| | 3 | 15 | 5 | 4 | | | | | |
| | 4 | 16 | 1 | 3 | | | | | |
| | 5 | 17 | 2 | 3 | | | | | |
| | 6 | 18 | 3 | 4 | | | | | |

©Foresight Inc.
本サービス・コンテンツの知的財産権その他一切の権利は
株式会社フォーサイトに帰属し、無断転載・引用を禁止します。

# 平成 30 年度 大学入学共通テスト試行調査

# 地理

Foresight 現役東大生の個別学習指導 オンライン家庭教師

## ■ 出題分析

| 配点 | 試験時間 | 大問数 | センターとの難易度比較 |
|---|---|---|---|
| 100 点 | 60 分 | 5 題 | 同程度 |
| センターとの分量比較 | | | |
| 減少　同程度　増加 | マーク数は例年 35 程度に対し 32 であり、設問数も例年 35 程度から 30 に減り、大問は 6 から 5 に減少した。 | | |

＜トピックス＞

- 大問数が 6 から 5 に減少し、設問数が少なくなった。
- 世界地誌の大問が 2 から 1 に減少した。
- リード文が長い問題など、読解力を問う問題が多くなった。
- 1 設問で 2 つマークする問題が出題された。

## ■ 全体分析

大学入試センターは新テストを「主体的・対話的で深い学び」の実現のため、思考力・判断力・表現力を生かした問題を作成すると公表しており、知識問題に加え従来以上に統計判定問題や図表問題が増加すると考えられる。地理は以前から、統計判定問題や図表読み取り問題が出題されているため、他科目より共通テストの対策が容易であろう。また、現行のセンター試験の第 4 問、第 5 問では、世界地誌とその比較地誌が出題されていたが、それが第 4 問のみの出題に減少した。大問は減少したが、個々の地域の産業・自然地誌については、第 1～3 問にも出題されるので引き続き対策したい。問題の難易度としては、高 3 生の平均正答率が 61.6%とテスト時期を考慮すると難易度は同程度といえる。なお、大学入試センターは、今後問題ごとの難易度のばらつきを大きくしていくとしている。

## ■ 大問別分析

※ 難易度は 5 段階表示で、フォーサイトの見解によるものです

| 問題 | 出題分野・テーマ | センター試験との相違点・コメント | 難易度※ |
|---|---|---|---|
| 1 | 系統地理<br>世界の自然環境 | 現行センター試験の第 1 問の出題に類似している。正答率は 50%程度とやや難しく、正答率が非常に高い第 1 問から非常に低い第 3 問まで、難易度にばらつきがある。 | やや難 |
| 2 | 系統地理<br>資源・産業地理 | 現行センター試験の第 2 問の出題に類似している。正答率は 50%前後とやや難易度が高い。情報量が多いので、解答に必要な情報をいかに取捨選択できるか、思考力が試されている。 | やや難 |
| 3 | 系統地理<br>生活文化、民族・宗教 | 現行センター試験の第 3 問に類似している。正答率 60%よりやや高くなっており、難易度はやや易しいといえる。トウモロコシの伝播経路の模試図など、変わった形式の問題が多くなっている。 | 標準 |
| 4 | 地誌<br>現代世界の諸地域<br>比較地誌 | 現行センター試験の第 4 問、第 5 問に類似している。世界地誌の大問数が 2 から 4 に減少している。正答率が 70%程度と難易度は易しかった。1 つの問題で 2 つマークさせる問題が出題されたので、マークミスに注意したい。 | 易 |

©Foresight Inc.
本サービス・コンテンツの知的財産権その他一切の権利は
株式会社フォーサイトに帰属し，無断転載・引用を禁止します。

| | | | |
|---|---|---|---|
| 5 | 様々な地図と地理的技能<br>地形図<br>地域調査 | 現行センター試験の第 6 問に類似している。正答率は 65%を超え、全ての問題で資料を読み取って解答する力が問われた。地図やグラフに解答があり、知識はほとんど必要とされない問題ばかりだったので、丁寧に問題と資料を読み解いていきたい。 | やや易 |

## ■　合格への学習アドバイス

正答率が低い問題の特徴は

①受験生のなじみがない地域に関する問題（降雨の原因）

②細かい知識を問う問題

③多くの受験生にとって初見のグラフを利用した問題

④情報量が多く、解答にあたって注目すべきデータを見つける必要がある図表問題

である。これらの問題に慣れるとともに、地理的思考力を身につけていきたい。

今後さらに思考力が求められる問題が増加すると考えられるため、過去問や予想問題集を通じて共通テストの出題の「クセ」を掴み、あらかじめ注意するべき事項を踏まえておきながら問題文を読み取る必要があるだろう。逆に、細かい知識を問う問題については、今後減少していくと考えらえるので、解答のコツさえつかめば従来のセンター試験より簡単に感じるようになるだろう。

そのための対策法として、

・学校のテキストや標準テキストを利用して地理の基本的知識を身につける

→地理的思考力は全く知識がない状態では身につかないため

・地図帳やデータブックを見て、そのつながりを考える

→国ごとの気候や地形・立地と、その国の産業を結び付けて考える力をつけるため

・本番の出題形式になれる

→過去問題集や予想問題集などをたくさん解く

など地道な学習が得点力の向上につながるだろう。地理はセンター試験の形態と大きく変わっていないので、うまく過去問を活用しつつ得点力を上げていきたい。

©Foresight Inc.
本サービス・コンテンツの知的財産権その他一切の権利は
株式会社フォーサイトに帰属し，無断転載・引用を禁止します。

# 平成 30 年度 大学入学共通テスト試行調査　地理 B

## 第 1 問

| | |
|---|---|
| 出題範囲 | 自然地理 |
| 難易度 | ★★★☆☆ |
| 所要時間 | 得意：10 分　　ふつう：11 分　　苦手：12 分 |
| 講評 | 比較的難しい問題が多く、多くの高校生が苦戦しただろう。正答率は 12.1~86.6%の範囲にあり、難易度にばらつきがみられた。問 3 の正答率が低かったのは、南米の地形をしっかり把握していない高校生や、気候と地形を結びつける経験がない高校生が多かったことによると考えられる。 |

**問 1**　1　**正解は③**

**難易度**　★☆☆☆☆

**解説**

正答率は 86.6%と比較的容易なので、間違えた高校生は復習しよう。

地図から海岸線と島々はほぼ平行であることが読み取れるため、アは平行とわかる。また、内的営力は地球内部からのエネルギーにより行われる火山などの活動をいい、外的営力は太陽の熱エネルギーを起源とする流水・風・氷河など、地球外部からはたらく力により侵食などを通じて地表の地形を変える活動をいう。図 2 は侵食により形成された谷であり、イは外的営力とわかる。

以上より，正解は③である。

**問 2**　2　**正解は⑥**

**難易度**　★★★☆☆

**解説**

正答率は 62.9%であり、地理的思考力が問われる問題だった。火山噴火は基本的に陸地で起こることとプレートの位置を意識して解こう。

まず、カ～クのどれが A の範囲に当てはまるのかを見極める。

**カ**　B が該当する。カの火山噴火や地震の位置が日本付近のプレート境界のあたりに集中していることに気がつけるとよい。

**キ**　C が該当する。環太平洋造山帯の形に沿って火山噴火や地震が起きている。

**ク**　A が該当する。環太平洋造山帯の位置を知っていればキと見比べて解くことができる。クにおいて右上でも火山噴火が頻発しているのは、カリブプレートの境界付近だからである。

次に j と k のどちらが地震の震央を示しているのかを見極める。火山は基本的にプレートの境界付近の限られ

©Foresight Inc.
本サービス・コンテンツの知的財産権その他一切の権利は
株式会社フォーサイトに帰属し，無断転載・引用を禁止します。

た部分で発生するのに対し、地震はプレートとプレートの接する部分のどこでも起こりうるので、ばらつきが大きい j が地震の震央とわかる。

以上より，A - ク、j - 地震の震央、の組み合わせになる⑥が正解である。

**問 3** 3 **正解は③**

**難易度** ★★★★★

**解説**

正答率 12.1%であり、難しい問題といえる。地域ごとの地形がわかれば気候因子を考えることで解くことができる。

サ　正しい。地点 E はブラジルのマナオスで、赤道付近に位置するので、どちらの収束帯の影響も受ける。

シ　誤り。地点 F はペルーのリマで、寒流であるペルー海流の影響で降水量が少なくなっている。

ス　正しい。地点 G はウルグアイのモンテビデオで、前線性降雨により年中降水がみられるので、温暖湿潤気候となっている。

以上より，サ - 正、シ - 誤、ス - 正の組み合わせとなる③が正解である。

**問 4** 4 **正解は③**

**難易度** ★★☆☆☆

**解説**

正答率は 78.4%であり、正答したい問題だった。

① 誤　猛暑日の日数から非常に暑い日の数はわかるが、猛暑日が多かったとしても夏季全体の傾向として例年より気温が低い可能性もあるため、今年の夏季が平均的に暑かったかを知ることはできない。

② 誤　気候の分布図は同時点での地域ごとの気温の違いはわかるが、他の期間(年)との比較はできない。

③ 正　平均気温を比べることで、気温を指標として暑さを客観的に比較することができる。

④ 誤　個人の意見は客観性に欠ける。

以上より，正解は③である。

**問 5** 5 **正解は⑥**

**難易度** ★★★★☆

**解説**

正答率は 47.1%であり、解けるようにしたい問題であった。

P　ツ　P は河岸段丘と考えられる。河岸段丘は、河川による侵食で作られる地形であり、河川は徐々に下へと侵食するため、P は 3 地点の中で最も古い地形とわかる。なお、P を河岸段丘と判断するのは難しいため、Q や R を先に判断したい。

Q　チ　Q は扇状地の扇端考えられる。扇状地の扇央では、河川の力により山間部から運搬された砂礫が堆積す

©Foresight Inc.
本サービス・コンテンツの知的財産権その他一切の権利は
株式会社フォーサイトに帰属し，無断転載・引用を禁止します。

るため、河川水が地下に伏流する。扇端では、砂礫が小さく粘土状になるため、伏流水が湧き出し集落が立地しやすい。

R　タ　R は氾濫原に位置する。川の氾濫が起こる度に土砂が堆積することで川の両岸には小高い自然堤防ができる。自然堤防は洪水が起きても水害の影響が小さいため、集落ができやすい。

以上より，P - ツ、Q - チ、R - タの組み合わせとなる⑥が正解である。

**問** 6　6　**正解は③**

**難易度**　★★★★☆

**解説**

正答率は 44.1%であり、難しい問題だった。

**ナ**　アフリカが 1%であることから被害額とわかる。干ばつなど、アフリカでも自然災害は起こっていることから 1%となりうるのは被害額のみである。また、南北アメリカやヨーロッパといった先進国の割合が比較的大きいことからも確認できる。

**ニ**　どの地域でもある程度の割合がみられることから、発生件数とわかる。世界中で自然災害が全くない地域はないといえる。

**ヌ**　人口が多いアジアの割合が大きいことから被災者数とわかる。

以上より，ナ - 被害額、ニ - 発生件数、ヌ - 被災者数の組み合わせになる③が正解である。

©Foresight Inc.
本サービス・コンテンツの知的財産権その他一切の権利は
株式会社フォーサイトに帰属し，無断転載・引用を禁止します。

# 平成 30 年度 大学入学共通テスト試行調査　地理 B

## 第 2 問

| | |
|---|---|
| 出題範囲 | 資源・エネルギー、世界の工業 |
| 難易度 | ★★★☆☆ |
| 所要時間 | 得意：10 分　　ふつう：11 分　　苦手：12 分 |
| 講評 | 難易度のばらつきは少なく、日ごろから勉強している高校生にとって解きやすい大問であった。正答率は 5 割前後の問題が多いため、細かい知識を覚えているかで得点に差がついた。問 1 で正答率が低かったのは、自分の覚えている知識に頼り、アフリカの地理的特色を資源産出と結び付けられていない受験生が多かったと考えられる。日ごろからデータにふれるとともに、データを見る際にはそのデータの背景を調べるようにしよう。 |

**問 1**　7　**正解は④**

**難易度**　★★★★☆

**解説**

正答率が 27.9%と低くなっており、差がつく問題であった。エネルギーの採掘量ではなく埋蔵量であることに注意したい。

① 西アジアである。西アジアは石油の輸出国が多いことから推測したい。

② 中南アメリカである。中南アメリカには新期造山帯に属している地域が多いことから、石油の埋蔵量が多いことがわかる。ベネズエラのマラカイボ油田などを想起するとよい。また、中南アメリカの油田は可採年数が多いことが特徴なのでこの点も覚えておきたい。

③ 北アメリカである。カナダには多くの超重質油が多く埋蔵しているなど、北アメリカは石油の埋蔵量も多いが、ここでは石炭の埋蔵量に着目したい。アメリカは古期造山帯に属する地域が多く、アパラチア炭田などに多くの石炭が埋蔵されている。

④ アフリカである。消去法で解くのがよい。特徴としては、南アフリカ共和国のドラケンスバーグ山脈あたりが古期造山帯、北部のモロッコのあたりが新期造山帯の他、大陸のほとんどが安定陸塊であるため、エネルギーの埋蔵量は他地域より少ない。

以上より，正解は④である。

**問 2**　8　**正解は②**

**難易度**　★★★☆☆

**解説**

正答率は 61.4%であり、エネルギーについての基本的な知識が問われる問題であった。これを間違えた人はエ

©Foresight Inc.
本サービス・コンテンツの知的財産権その他一切の権利は
株式会社フォーサイトに帰属し，無断転載・引用を禁止します。

ネルギーに関するデータや教科書を復習したい。

① 正しい。鉄鉱石の輸出について、オーストラリアが 54.0%、ブラジルが 23.4%を占めている。(2016 年)

② 誤り。原油の輸入量は、1 位アメリカ合衆国が 16.6%、2 位中国が 15.4%、3 位インド 9.3%であり、日本は 4 位 7.3%である。(2015 年)

③ 正しい。他産業と同様、第二次世界大戦後は、規模の増大や機械の改良によるオートメーション化が進行した。

④ 正しい。発展途上国では、人口増加と国民所得の増加が急激に進み、工業製品の消費量の増加率が高くなっている。

以上より，正解は②である。

**問 3** 9 **正解は⑤**

**難易度** ★★★☆☆

**解説**

正答率は 60.2%であり、知識が少なくても解ける問題だった。

この問題は、資源と工場立地の変遷についての問題であるため、年代を追って考えていく。

前提として、問題文より、輸送費の観点から製鉄所の立地を考えることに留意したい。

まず、1900 年前後について、表 2 より鉄鋼製品の生産に必要な石炭の量が多いことがわかるので、石炭の輸送費を安くするために石炭の産出地の近くに製鉄所が立地すると考えられる。よって、ウが当てはまる。

次に、1960 年前後について、表 2 から、鉄鋼製品 1 トンあたりの石炭の使用量が低下し、鉄鉱石の使用量を下回ったため、鉄鉱石の産出地に製鉄所が多くなる。よって、アが当てはまる。

最後に、2000 年前後について、仮想の条件より、2000 年前後には南東側の国から資源を輸入するようになっている。資源は貿易港から入ってくるため、製鉄所は貿易港をもつ都市に立地する。よって、イが当てはまる。

以上より、1900 年前後 - ウ、1960 年前後 - ア、2000 年前後 - イの組み合わせになる⑤が正解である。

**問 4** １０ **正解は④**

**難易度** ★★★★☆

**解説**

正答率は 46.7%とやや難しい問題であった。

① 誤　東アジア・東南アジアの国の中には、輸入していた国内消費量を国内生産でまかなう輸入代替型から、生産量の拡大や技術の向上に伴い輸出指向型に変わった国や、外資企業を誘致することにより輸出指向型になった国が多い。なお、輸出指向型から輸入代替型に転換することはあまりない。

② 誤　工業化に伴い、先進国との貿易量は増加しているが、ASEAN(東南アジア諸国連合)など地域間のつながりも深く、東アジア・東南アジアの域内貿易も活発化している。

©Foresight Inc.
本サービス・コンテンツの知的財産権その他一切の権利は
株式会社フォーサイトに帰属し，無断転載・引用を禁止します。

③　誤　中国の重化学工業化により、沿岸部の都市に人口が集中し、東西での地域間経済格差は拡大した。

④　正　ASEAN の域内貿易自由化に伴い、日本の自動車企業などにより 1990 年代以降に東南アジアでの生産のネットワーク化が進められた。

以上より，正解は④である。

**問 5**　１１　**正解は④**

**難易度**　★★★★☆

**解説**

正答率は 41.2%とやや低くなっている。地形に特徴のある国をヒントに解答できたかで差がつく問題であった。

カ　地熱である。キ・クと上位 5 か国がほとんど異なっている。特に、キやクにない 2～5 位の国で共通する特徴は、国土のほとんどが新期造山帯である環太平洋造山帯に属し、火山があることである。よって地熱とわかる。

キ　バイオマスである。アメリカや中国、ブラジルと、クと共通の国が多くみられる。特徴としてはドイツと日本である。ドイツは、新エネルギーに力を入れていることが知られており、発電量の 18.3%をバイオマスが占めている(2015 年)。特にバイオマスでは、木質バイオマスの利用が多くなっており、その助成制度として 2000 年に FIT が始まっている。新エネルギーの普及と国の政策は深く関わっているので、これを機に復習しておきたい。

ク　水力である。クを見ると国土が広大で、世界的な大河がある国が多い。特にブラジルでは国内発電量の 61.9%、カナダでは 56.8%(ともに 2015 年)を水力が占めているので、覚えておきたい。

以上より，カ - 地熱、キ - バイオマス、ク - 水力の組み合わせとなる④が正解である。

**問 6**　１２　**正解は③**

**難易度**　★★☆☆☆

**解説**

正答率は、77.2%と高く、落ち着いて図を読み取れれば解ける問題だった。

①　正　縦軸の 1 人当たり二酸化炭素排出量をみると 8 か国の中で最大とわかり、横軸も 100 程度と 1990 年から二酸化炭素の排出量があまり変化していないことがわかり、環境問題への対策が遅延していると考えられる。

②　正　横軸が 350 程度であり、1990 年と比較して二酸化炭素排出量が 3 倍以上になっていることがわかる。

③　誤　再生エネルギーや電気自動車は、それ自体として二酸化炭素を排出しないため、これらが普及すると 1 人当たり二酸化炭素排出量、二酸化炭素排出量ともに減少し、左下方向に移行する。

④　正　スとセは 1990 年と比較したとき、二酸化炭素排出量が 3 倍以上となっており、今後も経済発展が進むと、二酸化炭素排出量は増加し続けると考えられる。すでにスは 50 億トンの二酸化炭素を排出しており、

©Foresight Inc.
本サービス・コンテンツの知的財産権その他一切の権利は
株式会社フォーサイトに帰属し，無断転載・引用を禁止します。

この量が増加すると世界全体にも大きな影響を与える。

以上より，正解は③である。

©Foresight Inc.
本サービス・コンテンツの知的財産権その他一切の権利は
株式会社フォーサイトに帰属し，無断転載・引用を禁止します。

# 平成 30 年度 大学入学共通テスト試行調査　地理 B

## 第 3 問

| | |
|---|---|
| 出題範囲 | 生活文化、民族・宗教 |
| 難易度 | ★★☆☆☆ |
| 所要時間 | 得意：8 分　　ふつう：10 分　　苦手：12 分 |
| 講評 | 問 1 を除く問題で多くの高校生が正答している。「学習成果を学校の文化祭で発表する」ことを通して考察させる問題はいかにも共通テストらしい。正答率が一番低い問 1 は日本の高校生の先入観、すなわち他の宗教と比してプロテスタント信者数が多いという錯覚に由来するだろう。しかし、親切にも宗教の分布が示されているから、各国のおおまかな人口を知識として知っていれば正答できるはずだ。教科書レベルの知識をつけること、さらにそれを日常のニュースや話題に結び付けて考えていれば、この大問で失敗することはないだろう。 |

**問 1**　13　**正解は①**

**難易度**　★★☆☆☆

**解説**

正答率は 29.9%であり、やや難しい問題であった。

A　イスラームが当てはまる。イスラームはアフリカ北部～西アジアを中心に広く分布しておりインドネシアやパキスタン、バングラデシュなど、人口の多い国でも信仰されている。なお、インドでは、主に信仰されている宗教はヒンドゥー教だが、イスラームも 1 億人以上に信仰されている(インドの全人口の 13%)。

B　ヒンドゥー教が当てはまる。13 億人以上の人口を擁するインドでは(2017 年、国連推計)、その人口の 79.8%(2011 年)がヒンドゥー教を信仰している。そのため、宗教人口でみると 10 億人を超えるが、問題の図からもわかるように世界的な信仰の広がりがないため、B となる。

C　プロテスタントが当てはまる。展示資料Ⅰ「世界の宗教」の図をみると、プロテスタントはアングロアメリカ、オセアニア、ヨーロッパの一部で信仰されている。これらの国ではアメリカ合衆国を除いて 1 億人を超える人口を擁する国は存在せず、宗教人口が少ないと考えられる。以上から、C とわかる。

以上より，正解は①である。

**問 2**　14　**正解は②**

**難易度**　★★★☆☆

**解説**

正答率は 59.9%となっており、宗教の分布に関してどのくらい知識があるかで差がつく問題であった。

①　正　前ページの展示資料Ⅰを見てほしい。キリスト教の分布はヨーロッパのほか、南北アメリカ大陸やオー

©Foresight Inc.
本サービス・コンテンツの知的財産権その他一切の権利は
株式会社フォーサイトに帰属し，無断転載・引用を禁止します。

ストラリア、南アフリカ共和国に広がっており、一度ヨーロッパ諸国の植民地になった国々ということがわかる。

② 誤　東方正教はスラブ語派の言語を話す国々を中心に伝わっている。ゲルマン語派の言語を話す人々はプロテスタントを中心に信仰している。

③ 正　イスラームはアラビア半島の商業都市メッカで生まれたムハンマドによって確立された。その後、イスラームはアフリカ北部や一部ヨーロッパにも信仰が広がり、キリスト教の次に宗教人口の多い宗教となった。

④ 正　仏教は、インドから北上して中国方面へと伝わった大乗仏教と、東南アジアへと伝わった上座部仏教があり、今でもミャンマーなどでは上座部仏教が中心に信仰されている。なお、東南アジアでもベトナムでは大乗仏教が多いため注意が必要。

以上より，正解は②である。

**問 3**　15　**正解は⑤**

**難易度**　★★☆☆☆

**解説**

K　一年中降水量が少なく、気温は高い。

L　高日季に降水量が少なく、一年を通して温暖である地中海性気候と考えられる。

M　降水量が多く、また、低日季に気温が非常に下がることがわかる。

ア地域　伝統家屋に石を利用した家屋が挙げられている。これは南ヨーロッパ地域などで見られる家屋であり、地中海性気候の L が当てはまる。伝統家屋がわからない場合、保留にしてもよいだろう。

イ地域　獣皮から寒冷な地域、木材の利用から湿潤な地域と考えられ、M が当てはまる。

ウ地域　放熱性に優れた麻より温暖な地域、日干しれんがより降水の少ない地域と考えられ、K とわかる。

以上より，K - ウ、L - ア、M - イの組み合わせとなる⑤が正解である。

**問 4**　16　**正解は①**

**難易度**　★★☆☆☆

**解説**

① 正　乾燥地域に建つ日干しれんがでつくられた家屋は、保温性、断熱性を高めるために、窓を小さくすることで強い日差しが室内に入ることを極力さけている。

② 誤　日干しれんがでつくられる家屋が建つ地域は、降水量が少ない乾燥地域であるため、風通しといった多湿に対する配慮はなされない。

③ 誤　病害虫や疫病を防ぐことを目的とする場合、人から人への感染を最低限にするため、集落内の家屋は散在する。

④ 誤　日干しれんが積みの家屋が見られる地域は、中東やアフリカ大陸北部の乾燥地域であるため、季節風の

©Foresight Inc.
本サービス・コンテンツの知的財産権その他一切の権利は
株式会社フォーサイトに帰属し，無断転載・引用を禁止します。

影響は受けない。写真の樹木はオアシスで、砂漠の中で貴重な水が得られる場所。

以上より，正解は①である。

**問** 5　17　**正解は②**

**難易度**　★★☆☆☆

**解説**

とうもろこしの起源は中米のメキシコからグアテマラにかけてとされ、古くから南北アメリカ大陸の主要農産物であった。15 世紀末の新大陸発見直後にスペインへ伝播し、その後ユーラシア大陸、アフリカ大陸へ伝播した。以上より，正解は②である。

**問** 6　18　**正解は③**

**難易度**　★★★☆☆

**解説**

会話文から内容を類推して穴埋めを行う問題は、センター試験では少なかった。国語の問題に似ており、文章をしっかり読めば解答できる。

**カ**　「食文化は世界的に画一化されている」ことを表わしている例を選択すればよい。マクドナルドハンバーガー、スターバックスコーヒー、コカ・コーラなどアメリカ合衆国資本の食文化は日本のみならず世界に深く浸透している。これは「世界的に画一化された食文化」といえる。よって、カには U があてはまる。

**キ**　「食文化の画一化」の根拠となりえる資料を選択すればよい。食文化ごとに人々のカロリー摂取量や内訳は大きく異なるはずである。例えば、欧米の食文化はカロリー摂取量が高く、その内訳に占める脂質の割合が高いと予想がつく。この傾向を現在の日本が持っていれば、日本が食文化の画一化の影響を受けている根拠して言えるだろう。よってキには X が当てはまる。

以上より，カ - U，キ - X の組み合わせになる③が正解である。

©Foresight Inc.
本サービス・コンテンツの知的財産権その他一切の権利は
株式会社フォーサイトに帰属し，無断転載・引用を禁止します。

# 平成 30 年度 大学入学共通テスト試行調査　地理 B

## 第 4 問

| | |
|---|---|
| 出題範囲 | オセアニア |
| 難易度 | ★★★☆☆ |
| 所要時間 | 得意：8 分　　ふつう：10 分　　苦手：12 分 |
| 講評 | オセアニアを題材として、自然環境や ODA などの経済的側面、および人口移動について考察する問題であった。問 2 や問 6 といった複数選択の問題は正答率が低かったが、どちらも問題に関連する基礎的な知識があれば容易に解けるので、教科書をベースとした知識の習得と問題演習が肝要である。 |

**問 1**　19　**正解は③**

**難易度**　★★★★☆

**解説**

正答率は 45.0%と第 4 問の問題のなかでは最も低かった。オークランドを含むニュージーランドは全域で**西岸海洋性気候**（Cfb）である。偏西風の影響を一年中うけるため、年間を通して降水量や気温の差が小さい。

① 誤　この地域は緯度が低いため、熱帯に属する。雨季は雨に恵まれる一方で、弱い乾季もある。①は**弱い乾季のある熱帯雨林気候**（Am）で場所はケアンズ。

② 誤　この地域は南緯 30 度前後の大陸東岸に位置し、温帯に属する。夏は高温多雨、冬は低温少雨である**温暖湿潤気候**（Cfa）であり、場所はブリズベン。

③ 正　この地域は南緯 40 度前後に位置し、温帯に属する。選択肢②と③が温帯であることは予想できる。そのうち、より高緯度に属す気候帯は**西岸海洋性気候**（Cfb）である。場所はメルボルン。

④ 誤　この地域は南緯 30 度前後の大陸西岸に位置し、温帯に属する。冬に少し雨が降るが、夏はほとんど降らず高温、乾燥である。④は**地中海性気候**（Cs）で場所はパース。

以上より，正解は③である。

**問 2**　20　21　**正解は③と⑦**

**難易度**　★★☆☆☆

**解説**

複数選択の問題。図の読み取りと関連することがらを選択する問題である。1 つの設問で 2 つ選択させる問題なので、注意が必要。

A　オーストラリア東岸のメラネシアにはサンゴ礁が多数みられる。グレートバリアリーフはオーストラリア北東岸に広がる世界最大のサンゴ礁地帯であり、世界自然遺産に登録されている。よって A には g が当ては

©Foresight Inc.
本サービス・コンテンツの知的財産権その他一切の権利は
株式会社フォーサイトに帰属し，無断転載・引用を禁止します。

まる。

B　図 1 の「サンゴ礁分布の周辺域」には、堡礁はほとんど分布していない。よって、B は不適。

C　南アメリカ大陸の西岸には確かに分布していない。南アメリカ大陸西岸を流れる寒流のペルー海流によって、赤道付近でもサンゴが生育できるほどの水温にはならない。よって e があてはまる。

以上より，A - g，C - e の組み合わせになる③と⑦が正解である。

**問 3**　22　**正解は①**

**難易度**　★★☆☆☆

**解説**

オセアニアの伝統生活について問う問題。出題形式もセンター試験のものと似ており、難易度も平易であるため正答率が高い。

**ア**　サモアは熱帯に属し、一年中気温が高く湿度も高いため、伝統的な住居では窓をなくし、高床式にすることで風通しを良くしている。移動式の住居がみられるのは遊牧が盛んな内陸ユーラシアで、モンゴルのゲル、中国のパオが有名。

**イ**　タロイモは熱帯アジアを原産地として、高温多湿の環境を好む。オセアニアの島々やギニア湾沿岸の熱帯諸国で主食とされている。写真から判断しても、バナナとは異なることが確認できるだろう。

以上より，ア - 「風通しの良い」，イ - 「タロイモ」の組み合わせになる①が正解である。

**問 4**　23　**正解は④**

**難易度**　★★★☆☆

**解説**

歴史的背景をふまえつつ、太平洋島嶼国に対するいくつかの国からの ODA(政府開発援助)供与額の組み合わせとして正しいものを答える問題。ODA(政府開発援助)は、旧宗主国など歴史的なつながりが強い国が行うことが多い。

アメリカ合衆国が統治の対象としていた国は、マーシャル諸島、ミクロネシア連邦、パラオとある。よってこの 3 国に対して、他の国よりも多額の援助を行っている図を選ぶとよい。よってキが当てはまる。オーストラリアも同様にして考えると、パプアニューギニアへの援助額が大きいクが当てはまる。日本は表 1 を見ると、かつて統治の対象としていた国が図 2 には存在しないことがわかる。よって、図 2 中の国々への援助額の差に大きな特徴はないと考えられるだろう。よって、カが当てはまる。

以上より，アメリカ合衆国 - キ、オーストラリア - ク、日本 - カの④が正解である。

**問 5**　24　**正解は⑥**

**難易度**　★★☆☆☆

**解説**

©Foresight Inc.
本サービス・コンテンツの知的財産権その他一切の権利は
株式会社フォーサイトに帰属し，無断転載・引用を禁止します。

ニュージーランドとカナダへの流入が多い移民の送出国の統計から、共通点や相違点を踏まえながら年代ごとに送出国の特徴を分析していく。

まず P についてみる。1985 年にカナダにおいてアメリカ合衆国は 3 位となっているが、これはアメリカ合衆国とカナダの地理的近接性による。よって、スが当てはまる。なお、サは明らかに文脈上異なり、シについて、アメリカはカナダより経済発展しており 1985 年ごろ発展が進んだ国とはいえない。

次に Q についてみる。2015 年の順位においてニュージーランドとカナダで共通する国とは、表 2 より、インド、中国、フィリピンであり、1985 年から 2015 年にかけて経済成長の進んだ国である。よって、シが当てはまる。

最後に R についてみる。R は 2015 年における、ニュージーランドとカナダの移民数について相違点の背景を考える問題であり、ニュージーランドはオーストラリア、イギリスが上位に入っている一方で、カナダはイランやパキスタンが入っている。これはニュージーランドとカナダにおける難民政策の違いが反映されており、カナダは難民の受け入れが進んでいるために、難民が多く発生しているイランやパキスタンからの移民が多くなっている。

以上より，正解は⑥である。

**問 6**　25　26　**正解は③と⑦**

**難易度**　★★★★☆

**解説**

国家間での人口移動を引き起こす要因として、送出国側の要因と受入国側の要因として適当でないものを選ぶ問題。

① 正　居住環境の悪化は、その国から移民が送出される要因となる。紛争や環境の破壊によって従来通りの生活が難しくなった人々が移民として海外へ渡る理由となる。

② 正　雇用機会の不足も、若年層が海外へ仕事を求めて移民する理由となる。例えば、計画経済の影響で深刻な不景気に陥った 1990 年代以降の東欧諸国では、EU 加盟を機に多くの若年層が西欧へ移動している。

③ 誤　少子高齢化は、移民が移出される要因とはならない。将来的に労働人口の不足が懸念されるなかで、労働者不足に陥ることが懸念されるからだ。少子高齢化は、不足する労働人口を補うための手段として受入国側の要因として成立する。

④ 正　人口が増加すると、居住環境の悪化や雇用機会の不足などをもたらす原因となるため、人口が流出する原因となる。

⑤ 正　同じ業務内容であれば、賃金の高い企業に就職したい人が多いため、地域全体の賃金が相対的に上昇すれば、他地域から人口が流入する。移民ではないが、高度経済成長期の日本で東北地方などから東京への「出稼ぎ」が行われていたのは、相対賃金が高いことも原因の 1 つであり、相対賃金の高い東京に派が労働者が流入した。

⑥ 正　多文化主義を取り入れている国では、その国で「少数」となる民族・国籍の人でも安心して住むことが

©Foresight Inc.
本サービス・コンテンツの知的財産権その他一切の権利は
株式会社フォーサイトに帰属し，無断転載・引用を禁止します。

できるため人口が流入する。

⑦　誤　デジタルデバイドとは、パソコンなどから情報や情報技術を入手できる人とできない人の間で生まれる格差のことを表している。これらの格差が激しい地域は、平等で高品質な教育が整っていないことになるため、デジタルデバイドの大きさを原因とする人口の流入は起こらない。よって誤り。

⑧　正　労働力が不足すると、働き先が少ない国から人口が流入する。労働力が不足する国では、一般的に失業率は下がり、労働力が不足している業界での賃金も上昇するため、他国からも労働力が流入する。西ドイツでは、戦後復興に際して労働力が不足したため、1950 年代にガストアルバイターとして他国からの労働力を受け入れた。

以上より、正解は③と⑦である。

©Foresight Inc.
本サービス・コンテンツの知的財産権その他一切の権利は
株式会社フォーサイトに帰属し，無断転載・引用を禁止します。

# 平成 30 年度 大学入学共通テスト試行調査　地理 B

## 第 5 問

| | |
|---|---|
| 出題範囲 | 地理情報と地図、地図の活用と地域調査 |
| 難易度 | ★★☆☆☆ |
| 所要時間 | 得意：9 分　　ふつう：10 分　　苦手：11 分 |
| 講評 | 前半は比較的丁寧に読み取らないと難しい問題が多かったが、後半は日ごろから勉強している高校生にとって解きやすい問題が多かった。正答率は、問 2 の 25.4%を除くと 55%以上の問題となっており、落ち着いて取り組むことができれば高得点が狙えただろう。うまく得点できなかった人は、図や表からデータを読み取る練習をしてみよう。 |

**問 1**　２７　**正解は②**

**難易度**　★★★☆☆

**解説**

問題文を参考に地形図を読み取る問題。正答率は 58.9%であり、丁寧な読み取りを必要とされる。

A　別府大学駅から大分駅まで日豊本線に乗車すると、右側には鶴見岳や小鹿岳が見える一方で、左側には海が広がっている。次に、線路がひかれている地域の地理的特徴を考える。地形図の等高線に注目すると、A は最初平野部を通り、一度高崎山の山麓を通った後、西大分駅あたりから平野を通り、大分駅に到着する。ここまでで、アまたはウに絞られるが、A は海沿いを通り標高は低いためウは不適となり、アとわかる。

B　図 1 の石垣原あたりから見ていくと、初め進行方向右側に鶴見岳が見え、その後由布市に入るあたりから進行方向左手に高崎山が見え、大分駅に到着する。等高線に着目すると、鶴見岳や小鹿山、高崎山のふもとを通っていることがわかり、ウが当てはまる。

C　庄内駅から大分駅に向かっていくと、まず進行方向右側に冠山や霊山が見え、その後大分市に入る県境あたりからは左右に平野が広がっている。等高線に注目すると、C は雨乞岳と冠山、高崎山と霊山の間に位置し、谷を通っているとわかる。よってイが当てはまる。なお、谷は周囲と比較して標高の低い場所となっていること、そもそもの成因が川の浸食によることが多いため、川が流れていることが多い。

以上より、A - ア、B - ウ、C - イの組み合わせとなる②が正解である。

**問 2**　２８　**正解は②**

**難易度**　★★☆☆☆

**解説**

新旧地形図の比較とその解釈を求める問題であり、正答率は 25.4%と低くなっている。

①　正　1930 年の地形図を見てみると、大分駅の北東部に駅があり、そこから市街地を通る南北に走る道に線路が描かれている。道路の中に線路がひかれている形に見えるのは路面電車の地図記号である。

©Foresight Inc.
本サービス・コンテンツの知的財産権その他一切の権利は
株式会社フォーサイトに帰属し，無断転載・引用を禁止します。

② 誤　1930 年と 2018 年で、フェリー発着所付近を見比べると、両者で海岸線が変化していることがわかる。1930 年時点で師範学校の隣にあった勢家町の春日神社に着目すると、現在フェリー発着所がある場所は、1930 年時点では海であり、新たに埋め立てされた地域とわかる。よって誤り。

③ 正　1930 年の地形図で『歩四七』や『練兵場』と書かれている場所を 2018 年の地形図で探すと、一部が大分大学となっていることがわかる。

④ 正　1930 年の地形図では、大分城の北東部には田んぼが少し広がっているほかに有効な土地利用がなされていないが、2018 年の地形図を見ると大分城の北東部に住宅地が広がっている。よって、これは正しい。

以上より，正解は②である。

**問 3**　２９　**正解は③**

**難易度**　★★★☆☆

**解説**

2 つのグラフから大分市における産業推移を読み取り、考察する問題で、正答率は 58.0%となっている。

① 正　図 4 を見ると、1963 年における軽工業と磁場資源型素材工業の割合は 66.9%であり、全業種の約 3 分の 2 となっている。

② 正　図 4 を見ると、1963 年に 23.8%であった臨海型素材工業が 1980 年には 46.9%になっており拡大していることがわかる。また、図 3 を見ると、1965 年に 2.4 万人であった第二次産業人口が 1980 年には 4.6 万人に拡大している。よって、下線部は正しいといえる。

③ 誤　図 4 を見ると、1980 年に 12.5%であった機械工業の割合が 1999 年には 32.7%になっており、下線部の前半は正しいとわかる。一方で、第二次産業人口割合は 1980 年の約 28.4%から 1995 年の約 26.6%に低下しており、下線部は誤りである。なお、第二次産業人口割合の計算については、1980 年、1995 年の第一次産業人口をそれぞれ 1 万人、0.5 万人として求めている。図 3 のグラフは人口の推移を表しており、割合に直す必要があった。

④ 正　図 3 を見ると、1960 年における第三次産業の割合は、4.3÷(4.3+2.0+2.7)より約 47.8%であり 5 割を満たない。また、2015 年における第三次産業の割合は、第一次産業を約 0 万人として計算すると 15.9÷(15.9+4.8)から 76.8%であり 7 割を超えている。よって正しい。

以上より，正解は③である。

**問 4**　３０　**正解は③**

**難易度**　★★☆☆☆

**解説**

多様なデータから大分市における保育施設不足をとらえる問題で、正答率は 88.8%と高かった。

D　働く女性に関するデータがあれば、仮説の根拠となる。カ～クの中で女性の労働に関するデータはキであり、これが当てはまる。

©Foresight Inc.
本サービス・コンテンツの知的財産権その他一切の権利は
株式会社フォーサイトに帰属し，無断転載・引用を禁止します。

E　大分市への人口流入に関するデータがあれば、仮説の根拠となる。カ～クの中で、大分市の人口の変化を表しているデータはカであり、これが当てはまる。

F　子育て世帯に関するデータがあれば、仮説の根拠となる。カ～クの中で、子育て世帯に関するデータはクであり、これが当てはまる。

以上より，D - キ、E - カ、F - クの組み合わせとなる③が正解である。

**問 5**　３１　**正解は①**

**難易度**　★★☆☆☆

**解説**

別府市の観光客数の推移とその背景の結びつきを考える問題。正答率は 72.6%であり、解きやすかった。

サ　国民所得の上昇や全国的なレジャーブームが起こったのは、高度経済成長期であり、P が当てはまる。内容でわからなくても、サ～スの中で唯一客数の増加の理由となりうることから推測しよう。

シ　石油危機は 1973 年と 1979 年に起こっているため、その後に吹き出し口がある Q が当てはまる。交通網の整備が進むと、日帰りで旅行ができるようになるため宿泊する客は減少する。

ス　日本経済における急激な景気の悪化はバブル経済の崩壊をさし、R が当てはまる。消去法で求めてもよい。

以上より、P - サ、Q - シ、R - スとなる組み合わせの①が正解である。

**問 6**　３２　**正解は③**

**難易度**　★★☆☆☆

**解説**

会話文から大分の特徴と取組みを推測する問題で、正答率は 85.5%と高かった。

タ　「地理的なつながりが深い」とあることから、大分県と地理的距離の近い韓国が当てはまる。

チ　サツキは、取組み「チ」を通じて、観光を通じた交流人口の増加を目指しているとある。交流人口の増加が見込まれるのは X・Y のうち、X と考えられる。

以上より，タ - 韓国、チ - X の組み合わせになる③が正解である。

©Foresight Inc.
本サービス・コンテンツの知的財産権その他一切の権利は
株式会社フォーサイトに帰属し，無断転載・引用を禁止します。